

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | ドラッカーの思想④

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

ドラッカーの思想④

組織の運営の仕方（マネジメント）というと今までの経済至上主義と何が違うのかと疑問に思われるかもしれない。

しかし、ドラッカーは儲けるための組織運営を行えと言っているのではない。

彼の頭のなかにあるのは、あくまで中心に「人」がいる組織であり社会だ。

人と人が一緒に働きながら、それぞれが幸せになるためには、いかなる組織運営を行っていくべきか、その点にドラッカーは注目した。

とはいつても「産業人の未来」では、資本主義や社会主義というイズムに代わるものとしてのマネジメントを提案するだけで終わっていて、具体的な手法やスキルについては何も書かれていない。

ドラッカーは、具体的な組織の運営の手法を研究し始める。

企業活動の現場を見たい、と考えたドラッカーは大企業や中堅企業に申し入れたが、どこからも断られてしまった。

そんな時に、「産業人の未来」を読んで興味を抱いたGM（ゼネラルモーターズ）の副社長から、GMを研究場として提供しようとのオファーを受ける。

これを機に彼は1年半の間、GMに通い詰めて組織運営についての研究を行った。

それを報告書としてまとめたのが、三作目の「企業とは何か」だ。

「企業とは何か」は、出版されてすぐに評判を呼び、大企業の組織改革のテキストとなった。

しかし、GMの組織運営に対する批判も含まれていたため、GMサイドには受け入れられなかった。

「絶対というものはこの世には存在しない。すべては変わっていくものだ」「社会のことも考えよ」という考え方が、ドラッカー思想の根本であり、当時すでに世界的な超優良企業であったGM側は自尊心を傷つけられたのであろう。

また、ドラッカーは社員一人ひとりに話を聞いた結果として「仕事のことを一番よく分かっているのは現場である。彼らの考えを経営に取り入れるべきだ」と主張したが、これもGMの逆鱗に触れる一因になった模様である。

ともあれ、当のGMからは反発されたものの、「企業とは何か」を書いたことがきっかけとなって、ドラッカーは「マネジメントの父」「マネジメントの発明者」と呼ばれるようになった。

ドラッカーは生涯で膨大な著作を残しているが、「経済人の終わり」「産業人の未来」「企業とは何か」に続く、

「現代の経営」「創造する経営者」「経営者の条件」、そして企業経営の集大成として出版した「マネジメント」、

NPOのバイブルとさえいわれる「非営利組織の経営」は機会があればぜひ読みたい。

ドラッカーが「人間を幸せにする社会とはなんだろう？」と考えた末にたどり着いたのが「マネジメント」という方法論であったことに気づけよう。

(参照資料「マネジメント」「P.F.ドラッカー完全ガイドブック」)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.